

ARTS for HOPE

宮城チーム活動報告書 2013年9月11日

仙台市・東長町児童館

耳に長い紙の筒をくっつけて風の音を聞こうというこのワークショップ。集めたラップやホイルの芯と、色付きのボール紙などを材料に、まずは作り方の説明からスタートしました。一応、手順を書いたチラシを用意し、各テーブルに貼っておいたのですが、小学校低学年の子どもたちには、ちょっとその作業が難しかったようで、基礎となるヘッドギアづくりは、先生の手も借りて四苦八苦。まだ小さいので、ホチキスの使い方も、力が足らず、思うようにならないみたい。でも、ベースとなるかたちができただけ後は、もう、子どもたちの本領発揮という感じです。筒を耳に当て、「死んだじいちゃんの声が聞こえる」とか、「変な音がずっとしている」など、耳に届く不思議な音に夢中の様子です。なんだか筒から聞こえる音について、子どもたちが怖い話にばかりもってゆくので、先生にたずねてみたら、ここ東長町児童館では、夏休み中ずうっと「こわ〜いおはなし」が大流行りで、学校がはじまっても、みんなそれから抜けられずにいるのだとか。妖怪よりも

幽霊が、子どもたちの話題の中心だとのこと。

できあがってゆく「風の音を聞く」のヘッドギアは、みんなお得意のシールやモールなどで装飾され、どんどんと見事な王冠へと変化してゆきます。

昆虫の触覚、妖精の髪飾り、丸い輪にモールを線状にくっつけ顔にあて「剣道の面！」と見せてくれる男の子もいましたね。

みんな大好きな AKB48などのアイドルのスタイルに似せて、ヘッドギアにモールでマイクをつける技も人気となっていました。

へんてこな王冠を頭につけ、おだって（ふざけて）鏡に写ってみる子どもたち。風の音だけじゃなく、いろんな音もたくさんつけて聞いてみてくださいね。

